

GPN News



グリーン購入ネットワークニュース

第94号 2014年8月



確実に進行する地球温暖化と求められる行動 ～IPCC第5次評価報告書を読む～

20世紀後半に地球温暖化の進行が指摘され始めた当時は、遠い将来に起きるかもしれない不確定な現象、といった認識を持つ人も少なくありませんでした。しかし、気候変動に関する知見の蓄積が進み、人間の活動に起因する地球温暖化が進んでいることがより確実となってきました。また、北極の海氷の減少、氷河の後退、異常気象の頻発など、気候変動の影響と考えられる現象が世界各地で見られるようになり、日常生活の中でも極端な気象現象を体験することが増えてきました。

気候変動に関する政府間パネル（Intergovernmental Panel on Climate Change：IPCC）の各作業部会が2013年9月から2014年4月にかけて公表した第5次評価報告書では、今世紀末までに気温や海面水位が大幅に上昇する可能性があること、気温上昇を2℃に抑えるためには2100年に温室効果ガスの排出をゼロにする必要があること、気候変動の緩和に向け期待される対策などが示されました。

IPCC各作業部会の報告書について主な内容を紹介するとともに、地球温暖化の抑制に向けグリーン購入が果たす役割について、あらためて考えてみたいと思います。

■IPCCの目的と役割

国連環境計画(UNEP)と世界気象機関(WMO)により1988年に設立されたIPCCは、人間の活動に起因する気候の変化、影響、適応および緩和方策に関して、科学的、技術的、社会経済学的な見地から包括的な評価を行うことを目的としており、3つの作業部会と1つのタスクフォースが設置されています。

IPCCでは1990年に第1次評価報告書を公表。その後、1995年、2001年、2007年に報告書を作成しています。

IPCCの作業部会の任務

作業部会	任務
第1作業部会	気候システムおよび気候変化の自然科学的根拠に関する評価
第2作業部会	気候変化に対する社会経済および自然システムの脆弱性、気候変化がもたらす好影響・悪影響、ならびに気候変化への適応のオプションに関する評価
第3作業部会	温室効果ガスの排出削減など気候変化の緩和のオプションに関する評価

index

IPCC第5次評価報告書を読む	1-3	Gなとりくみ	12-13
TOPインタビュー	4-5	エコプロダクツ2014出展のお知らせ	13
GPN・IGPNの活動より	6-7	GPN活動報告	13
一斉行動キャンペーン報告	8	「エコ商品ねっと」更新情報	14
エコ商品ねっと「CFP環境ラベル」追加/TOPICS	9	地域ネットワークだより	15
2013年度財務諸表(要約)	10	新規入会会員紹介	16
2014年度収支予算書(要約)	11	ひとこと地域ネットワークだより	16



環境配慮製品の開発・普及に求められる視点 ～株式会社デコス 代表取締役 安成信次氏に聞く～

環境に配慮した製品やサービスを開発し市場への浸透を図るためには、自社の事業における位置づけの明確化、推進体制の整備、効果的なコミュニケーションなど、さまざまな側面からの取り組みが重要となります。第15回グリーン購入大賞において大賞・経済産業大臣賞を受賞された株式会社デコスは、あるべき住宅の姿を追求する中で、ライフサイクルを通じた環境負荷の低減に寄与する断熱材を開発し、カーボンフットプリント(CFP)の認定取得や情報発信などにより普及に努めています。製品開発の経緯や背景にある考え方、的確な環境情報の提供などについて、株式会社デコス 代表取締役の安成信次氏にお話を伺いました。

＝聞き手：GPN専務理事・事務局長 麴谷和也＝



●家づくりの追求から生まれた環境配慮製品

——環境負荷の少ない高性能の断熱材や優れた施工方法を独自に開発され、普及に取り組まれるようになった経緯についてお聞かせいただけますでしょうか。

安成社長 デコスの関連会社で住宅・建築事業を行っている安成工務店では、1989年から環境共生住宅の供給に力を入れ、太陽熱を有効活用したパッシブソーラーハウスの建築を進めてきました。事業を展開する中で、ソーラーシステムが十分な効果を発揮するためには、住宅の躯体の断熱性能を高める必要があることがわかりました。

このため、開口部にペアガラスを使用するとともに、断熱材の研究を進め、自然素材由来のセルローズファイバーを用いた「デコスファイバー」と、乾式工法を採用した「デコスドライ工法」を開発し、省エネ性能の高い断熱施工を実現しました。「デコスファイバー」は、断熱性に加え調湿性、吸音性においても優れた性能を持っており、快適な住環境を生み出すことができます。こうした製品を、安成工務店が施工する住宅だけでなく、より広く使ってもらうために、デコスでは1996年から施工代理店制度により全国展開を開始しました。

製品や施工方法の開発にあたって最も重視したのは、家づくりにおいて何が重要なのかという点です。あるべき住宅の姿を徹底して追求していく姿勢が、木造住宅に非常に適した断熱材の開発、さらには、ライフサイクルを通じた環境負荷の低減につながったのだと考えています。

——環境への積極的な取り組みの背景にある経営理念や事業に対する考え方についてお話しいただけますか。

安成社長 デコスを含め安成工務店グループでは、あるべき社会の実現に向け事業活動を通じていかに貢献していくか、という視点から経営を進めてきました。これは、社会にとっての価値と企業にとっての価値の共有と実現を目指すCSV(Creating Shared Value)の考え方に通じるものだといえます。

環境への取り組みにおいても、住宅の建築や建材の供給という事業活動を通じて、地域の環境や地球環境に貢献していくという考え方に立ち、「地域に合った家づくり」「快適でサステイナブルな家づくり」を目指してきました。

●客観的なデータに基づく情報発信

——「デコスファイバー」の普及に向けては、カーボンフットプリント(CFP)の認定を取得されるなど、環境情報の発信も力を入れておられますね。

安成社長 「デコスファイバー」は、原料の80%に新聞紙を使用することにより資源循環に貢献しており、製造時のエネルギー消費量も他の素材を使用した断熱材に比べ大幅に削減できます。また、使用段階では高い断熱性能によりエネルギー消費と温室効果ガス排出の抑制に寄与します。

しかし、「環境に配慮している」「エネルギー消費が少ない」といった表現で自己アピールするだけでは、製品の性



能や環境負荷低減効果を的確に伝えることはできません。客観的なデータや第三者による評価に基づく情報の発信が重要であり、そのためのアプローチの一つとしてCFPの認定取得に率先して取り組み、マーク表示によりCO₂の「見える化」を図っています。

まず実践してみることが重要だと考え、こうした取り組みがきちんと評価される社会になってほしいという思いもあり、エントリーすることを決めました。住宅分野では、ライフサイクル・カーボン概念が注目され、住宅の建築に伴うCO₂排出量と利用段階のCO₂排出量を最小化し、収支マイナスを目指すことが提案されており、こうした面からもCFPの認定取得は意義があると考えています。

●グリーン購入大賞受賞による認知度向上

——環境に配慮した製品に対する市場の認識や反応について、どのように感じておられますか。

安成社長 住宅を購入されるお客様にとって価格は重要な要素であり、当然、工務店の方々も品質や性能に加えコスト面を重視して断熱材の選択を行います。さまざまな断熱材の中で「デコスファイバー」は特に価格が高いというわけではなく、優れた断熱機能によりエネルギーコストも抑制されますが、現実には施工時のコストの比較で製品が選択されるケースが少なくありません。

安成工務店が住宅を建築する場合には、「デコスファイバー」の断熱性能や環境特性についてお客様に直接説明してお勧めすることができますが、外部の工務店さんが住宅を建築する際に、「デコスファイバー」の特長を理解していただき利用につなげていくことは、なかなか難しい面があります。そういう意味で、今回グリーン購入大賞において評価をいただき大賞および経済産業大臣賞を受賞したことは、認知度を高めるとても良い機会になったと考えています。

時間はかかるかもしれませんが、多くの工務店の皆様に当社の価値観や「デコスファイバー」の性能を理解していただけるよう、努力を重ねていきたいと思っています。お客様にとって価値のある製品であれば、工務店の皆様にも選択していただけるようになると確信しています。

●環境を基軸としたビジネス機会の創出

——貴社では、事業本来の目的を追求する中で、環境配慮製品の供給に取り組んでおられます。事業活動に環境の視点を組み込んでいくうえで、どのような点が重要だとお考えですか。

安成社長 まず、自社の強みは何なのかを見つめ、環境の視点からどのように事業を展開できるのかを検討することが重要だと思います。そして、方向性や目標を明確化し、担当者を決め社内の協力体制を整備すること、チャレンジ精神を持って根気強く取り組むことが大切です。

また、社内に十分な経験やノウハウがないケースも多いため、積極的に情報を収集することが重要です。同時に、あらゆる機会をとらえて自社の取り組みに関する情報発信を行い、多くの方々とコミュニケーションを図ることが大切です。一般の方々にもわかりやすく環境価値を伝えるという努力が、消費者の認識の向上、グリーンコンシューマーの育成につながります。

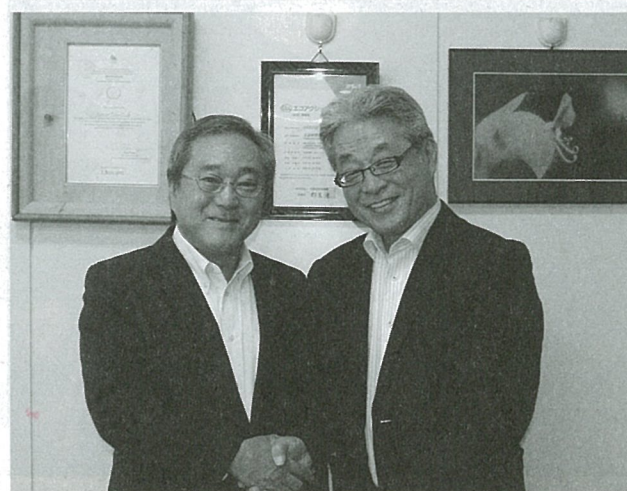
こうした取り組みの積み重ねが、環境を基軸とした人脈やネットワークの形成、新たなビジネス機会の創出に結びついていくと考えています。

——GPNでは今後も、グリーン購入大賞や「エコ商品ねっと」などの取り組みを通じて、環境配慮製品を積極的に生産・販売する企業を後押ししていきたいと考えています。

安成社長 グリーン購入大賞に関しては、受賞することによる認知度の向上といった効果だけでなく、応募にあたってエントリーシートに向き合うことで見えてくるものがたくさんありました。また、多様な方々と知り合う機会も生まれました。多くの団体がグリーン購入大賞に応募され、グリーン購入をはじめとする取り組みの拡大・深化につなげていただければと思います。

また、環境関連のさまざまなプログラムとの連携にも力を入れていただき、環境に積極的に取り組む企業が適正に評価される社会の構築に貢献されることを期待しています。

——本日はどうもありがとうございました。



環境負荷低減に貢献するフォークリフト用モップホルダー ～平安リネン工業株式会社～

平安リネン工業株式会社は、工業用クリーニング業として1975年に創業しました。マット、モップ、ウエス、軍手等をクリーニングしお客様に繰り返し使っていただく事業を通じて、資源の有効活用と廃棄物の排出抑制に貢献しています。また、クリーニングにおいては大量の水を使用することから、処理水を排水処理施設により浄化し再利用するとともに、排水による汚染の防止に努めています。

当社では、大手電機メーカーの倉庫担当者からの相談をきっかけに、フォークリフト用のモップホルダー「リフト君1号・2号」を開発し、普及に努めています。

フォークリフトを使用するような比較的規模の大きな倉庫では、清掃作業の負荷も大きく、業務用の大型掃除機を使用した場合、面積に応じて電力消費量も増加します。フォークリフトに「リフト君」を取り付け、モップを装着することにより、業務を行いながら倉庫内を清掃することができ、作業負荷とエネルギー消費を削減することが可能になります。「リフト君」に装着するモップは、フォークリフトの走行に耐え

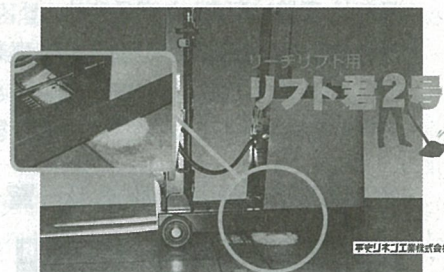
られ繰り返しクリーニングができる専用モップです。

相談を受けた電機メーカーで製品の試行を行い、コスト面を含

め検討を行った結果、採用していただくこととなりました。その後、使用実績を積み重ね、大手フォークリフトメーカーに補助具として登録していただき、全国のフォークリフト販売店様からも問い合わせが来るようになりました。

当社では、今後も工業用クリーニング業の観点から、お客様のニーズを踏まえた環境提案を行い、事業活動に伴う環境負荷の低減に貢献していきたいと考えています。

(営業部 大谷孝博)



「リフト君」でフォークリフトに装着されたモップ

エコプロダクツ2014 出展のお知らせ ～「グリーン購入でCO₂削減!」をテーマに出展～



日本最大級の環境展示会
エコプロダクツ2014
12月1日～13日 東京ビッグサイト

グリーン購入ネットワークは、12月11日(木)～13日(土)に開催される「エコプロダクツ2014」に、『グリーン購入でCO₂削減!』をテーマに出展いたします。GPNブースでは、CO₂排出量の削減に寄与する製品やサービス(グリーン電力証書・輸配送・印刷サービス等)の展示を通じて、グリーン購入の理解と参加を広く呼びかけていきます。今年もGPN会員団体の皆様と共同出展コーナーを設置する予定です。多くの方々のご来場をお待ちしております。

●日時: 12月11日(木)～13日(土) 10:00～18:00(最終日は17:00まで)

●場所: 東京ビッグサイト 東1～6ホール

*「エコプロダクツ2014」の詳細については、ウェブサイト
(<http://eco-pro.com/eco2014/outline/>)をご覧ください。

【ブース出展団体(予定)】

一般社団法人東京都トラック協会
一般社団法人日本経営士会
サラヤ株式会社
株式会社デコス
パナソニック株式会社
株式会社プリプレス・センター
グリーン購入ネットワーク

(2014年7月18日現在)

GPN の活動報告

5月

15日 北海道GPN総会
20日 第150回代表理事会
23日 第51回広報委員会
27日 滋賀GPN総会

6月

3日 第89回技術情報委員会
6日 京都GPN総会
12日 第61回普及委員会
16日 横浜GPN総会
18日 埼玉GPN総会

23日 みえGPC総会
24日 第52回広報委員会
25日 第6回地域ネットワーク担当者会議

7月

7日 第151回代表理事会
7日 第98回理事会
8日 第90回技術情報委員会
11日 GPN国際委員会
14日 第53回広報委員会
17日 第1回事務局運営委員会
24日 大阪GPN総会